
巨人対兵器 ～禁断の人種～

貧弱戦士

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

巨人対兵器 ～禁断の人種～

【Nコード】

N3886Z

【作者名】

貧弱戦士

【あらすじ】

巨人という生物が居ない世界。彼は神の子ではなく、人の手で生まれた禁断の子。『試験体104号』。それが彼の名前……彼は生まれたとともに、周りにいる生命を持つ生物は殺した。いや……食い殺した。初めての感情が『殺しの快感』の彼は、行く所転々と周り中の生物を食い殺した。けど……次の感情は『孤独感』だった。その時、彼に舞い降りた光輝く人影。正体は……

巨人对兵器 幕開け

生命とは何だろうか

いや、そもそも俺には関係ない話。そんな思っている事すら無駄なんだろう

生まれてすぐに生命を持つ生物を殺し、あの快感はいまだに忘れやしない

その快感はまさに禁断少女。止められず、止まらず。俺は快感を忘れられなく、そのまま何処かへ向かった

悲鳴なんか興味なく、ただただ殺しというスッキリしたあの最高の快感をただ……いまだに奥底に持っている

「ハア・・・ハア・・・また、孤独」

だが殺しすぎて気づいちゃったんだ。周りにいる生命は何処にも存在しなくなつて、たった一人になつたんだと

孤独

一人

存在は俺しかいない。俺しか居なくなつてしまった。この感情……寂しい。怖い、怖い

「うう……ううう……うあああああ……！！！！！！俺は、何でこ

の感情を！！！！糞ーーーー！！！！！！！！」

悔しい、何で俺はこんな感情が芽生えたか。『孤独』という俺の一本道を知ってしまったか

だが、俺のアノ快感は忘れられない。生命を殺しても許される事は無い。それぞれには、ルールがあるかぎり

「俺は……どうすれば」

嫌だ……嫌だよ。孤独なんて嫌だよ。俺は何でこんな事をしてしまったんだ。俺は……何でバカな奴なんだ

「なら……それを改めなさい」

「！？ 誰だ！！」

頭の中で声が聞こえる。まるで俺を惨めな声で話しかけるように。そして、声は響きだす

「あなたの『力』を求めている者がおります。あなたの快感も……何れは和らぐでしょう」

空が光だし、そこからだんだんと何かが降りて来る。黄色に輝き、人影が見えだす。天使……

天使だ

「そこなら殺しても、褒められる世界です。ですが、殺すのは……『人』です」

「……………」

「『巨人』。それが、あなたの敵となるでしょう。行きますか」

孤独という感情が無くなれば、俺はずっと生きてられる。あの快感がまた、蘇るんだ

禁断の子は、天使に跪き

「ああ……………」

「では、行きなさい。あなたの『敵』に元へ」

俺はそこで視界が暗くなり、完全に前が見えなくなった。孤独という感情を無くなれば…………

「……ここが、『巨人』の世界」

まるで隕石が落つこちた跡があり、俺の体中煙が出ている。ああ、我慢ができねえ。まだか……『巨人』は

落ちた場所は森らしく、まるで誰一人も住んでいなさそうな気味が悪い森。フクロウの囀りも聞こえない

『ドン!!』

「!? そつか……たしかに、俺の『好物』だ」

.....

大きい足音みたいのが聞こえ、俺の横にずっと見ている『大きい人』がそこに居た

さあ

「食事の時間だ」

《■■■■■■■■■■！！！！》

とても良い声だ。恐れを感じなく、むしろ俺に向かってくる姿。
こいつを殺せば、俺は孤独にならない

自分の右手を前に出し、だんだんと溶けていくかのようにドロドロ
口になっていく。赤く……温かく

その正体は……血。俺の能力は自分の血を操れる、能力だ

「食す」

『ガバッ!』

右手はまるで大きい大口の化け物みたいになり、『巨人』をまるごと咬んで、咬んで、ついには

「ごくん……ごちそうさま」

飲み込んでしまう。なかなかいい味が出ていたぞ。ああ、久しぶりの快感を味わって、正直嬉しいよ

此処からが、俺の物語の始まり

「やあ、エレン。ミカサ。はよう」

「うん、おはよう。デューガ」

「変態……」

「何でだ！！！！」

俺も久しぶりの夢を見たな……。俺の隣で寝ているのは、エレンとミカサという女の子二人

俺の名前はデューガ・ジーク。何となくつけた名前だ……。あれから3年の月日がたった

孤独……もう、俺は孤独じゃなねえんだ。ぜってえ守ってやるんだ。『人類』皆を

そして『巨人』は

「食い殺してやる」

「「？」」

「いや何でもねえ。それより、薪を取りに行こうぜ」

「うん！-！」

「いいよ。エレンが行くなら」

「俺お前大嫌い」

「ありがとう、私も」

こんな奴でも、俺の能力を使って守ってやる。今は845年。この年が……人類の反撃だ

巨人対兵器 幕開け（後書き）

感想をください

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3886z/>

巨人対兵器 ～ 禁断の人種 ～

2011年12月13日03時48分発行